

平成 24 年度 特別養護老人ホーム「喜久の園」事業報告書

第1 概況

1 感染症対策と利用率

平成 24 年度は、昨年 1 月のノロウイルス感染の影響が、短期入居者の利用率減をはじめ各方面に大きくあったため、施設を挙げて感染症防止対策に取り組んだ。この結果、利用者の発生はゼロになるなど一定の成果を上げると共に短期入居者の利用率も昨年比 3.8%増加した。

2 個人の尊厳と余暇活動

ユニットケアの実践の基本は、利用者個人の尊厳の最重視であり、それを担保するのはケア技術の向上である。その指標の一の事故件数は、前年度比で 100 件減少した。

また、利用者満足度向上を目指す余暇、レクリエーション対策は、各ユニットの企画する行事と共に 9 月から利用が始まったカラオケセットを活用し、多くの利用者が一堂に歌う会を 78 回設けるなど楽しみと希望を感じる取組みを積極的に行った。

3 経営と人材育成の課題

一方、課題としては、年度末に建物償還金の借換えの結果、年間償還額が減少し 25 年度は収支の均衡が概ね図られる見通しであるが、依然として経営的には厳しい状況にあり、一層の経費節減と適正な人員配置に努める必要がある。また、科学的介護の実践を通じて、利用者満足度の向上が求められている。

このために、コスト意識の徹底と教育・研修の充実による能力アップと人材育成に努めていきたい。

第2 全体の状況

1 利用状況（利用率）

平成 24 年度の利用率は、長期入居 98.9%、短期入居 83.9%と、前年度に比べて若干増加した。特に短期入居者は、ノロウイルスなどの感染症の影響がなかったため、4%近く増加した。しかし、目標の利用率長期 99.5%、短期 90%は、達成できなかった。

なお、利用率に影響する入退去（長期）に係る所要日数は、平均 7.0 日と前年度の 6.3 日より若干上回った。

(単位 %)

区分	24年度	23年度	増減
長期入居者 50 人	98.9	98.6	0.3
短期入居者 10 人	83.9	80.1	3.8

2 経営状況（経常活動の主な収支）

平成 24 年度の経常活動による収入は 284,158 千円で、支出は 277,495 千円である、収支差は 6,663 千円の黒字である。〈数値はいずれも決算見込み。以下、同じ。〉

この中で介護保険収入は、介護報酬マイナス改定の影響もあり、収入はほぼ前年度並

みであった。一方、支出面では、人件費が年度当初大幅に増加したがその後抑制に努めた結果3,134千円の増加に止まった。また、事務、事業費では、感染症対策の費用が増えたものの、人材派遣費用がなかったため減少した。

収入

(単位 千円)

区分	24年度	23年度	増減
介護保険	280,605	280,395	210
その他収入	3,553	4,204	△651
計	284,158	284,599	△441

注) その他収入には、経理間の繰入金24,000千円は含めていない。

支出

区分	24年度	23年度	増減
人件費	197,481	194,347	3,134
事務、事業費	80,014	81,436	△1,422
計	277,495	275,783	1,712

注) 事業による収支を分かり易くするために、収入から繰入金(24年度24,000千円、23年度15,000千円)を、支出から繰上償還に係る弁済補償金(24年度22,184千円)を除いた。

3 職員状況(部門別職員数)

平成24年度末の全体職員数は51名で、正規職員は、27名で内訳は介護職員19名、看護職員3名、事務室職員(調理含む)5名である。また、非正規職員は、嘱託職員、医師を含め24名である。

前年同期の56名に比べて5名減であるが、25年4月1日現在の職員数は、正規職員29名、非正規職員25名の計54名である。

(平成25年3月31日現在)

(単位 人)

区分	事務室			介護職員	医務室	調理	計
	施設長 副施設長 介護部長	主任 CM兼事務 管理室員	送迎担当 清掃員	主任 副主任 一般	看護師 嘱託医師	管理栄養士	
正規	3	1	—	19	3	1	27
非正規	—	2	3	16	3	—	24
計	3	3	3	35	6	1	51
23年同期	3	4 (2)	3 (3)	38 (15)	7 (3)	1	56 (23)

注) 1 23年同期の()は、非正規職員である。

2 他に産休、育休中が4人いる。

4 施設整備等の状況

施設整備のための大規模工事はなかったが、エアコン3台及びスプリンクラー設備高架水槽配管等の修理を行った。

5 特記事項

(1) 事故件数削減への取組み

事故削減は、ケアの生産性向上の大きなポイントであり、事故防止委員会では原因区分や対策の見直しに取組み、24年度は375件と前年度より100件減少(資料編18)した。なお、今年度は300件以下を目標としている。

(2) 余暇、レクリエーション活動の状況

個人の尊厳や利用者満足度向上のためには、余暇活動は重要であり、各ユニットでの行事、ボランティア活動の活性化(資料編16・17)と共に、下表のとおり9月からカラオケセットを活用して延1,058名の利用者が歌声を楽しんだ。

区分	9/25～	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
回数	4回	14	11	7	11	10	21	78
利用者数	26人	169	147	80	144	157	335	1,058
1回平均	6.5人	12.1	13.3	11.4	13.1	15.7	16.0	13.6

(3) 家族、利用者との交流行事の開催

① 家族懇談会 5/12(土)開催—22家族(24名)

内容： ・介護報酬改定に係る利用料金及び配置医師の交代等の説明
・各フロアごとに座談会

② 納涼祭 8/11(土)開催—長期入居者49名・短期入居者9名

・34家族(52名)・招待45名・ボランティア11名

内容： 夜店、盆踊り、花火を行うと共にボランティア活動等でお世話になっている方を招待

③ 敬老祝賀会 9/15(土)開催—長期入居者36名・短期入居者2名

・31家族(40名)・来賓12名

内容： 式典・記念品贈呈、演芸(唱女会による三味線演奏)

(4) 研修への取組み

人材育成のカギとなる研修充実のために、園内外の研修の他に、県立大学委託の介護技術向上のための基礎研修への参加と共に、職員に今必要な次の研修を実施した。

○ 法人研修(県社会福祉振興助成事業)→会場 地域交流センター「うらら」

(研修項目)	(開催日)	参加者総数	(喜久の園)	アンケート結果
・接遇研修	10月22日	112名	(38名)	95.6%(参考になった)
・パソコン研修	11月26日	38名	(21名)	94.3%
・感染症対策研修	12月14日	24名	(13名)	100%
・看取り研修	2月6日	46名	(15名)	100%
		計	220名(87名)	96.6%

(5) 地域交流センター「うらら」の利用

地域住民や利用者、家族との交流の場さらに各種研修の場として積極的な利用に努めた。また、25年3月には、地元仲島自治会と「防災に関する覚書」を締結し、防災用品の提供を受けた。さらに、100歳記念の家族会の会場として初めて利用されるなど有効活用に努めた。

今後も一層の利用推進と利用規程等の整備に取り組んでいきたい。

第3 部門別の状況

1 事務・管理部門

施設全体を把握し、事務処理し管理する部門として、利用者、家族には来園しやすく、職員には働きやすい機能的な勤務環境構築のため、次の取組みを進めた。

- ① 来園者するすべての方への接し方ひとつで施設の印象が決まることを常に意識し、明るいあいさつ、応対に心掛けた。
- ② 施設全体の環境美化、緑化に努め、明るい清潔な施設環境づくりを進めた。
特に玄関には、ボランティアの協力で常時活花が置かれるようになった。
- ③ 働きやすい勤務環境のために、職場改善活動（一人一改善）に取り組んだ結果、52名の職員から改善28件、提案等37件計65件の提出があり、職場改善に取り組んだ。
- ④ 「事務分担及び業務分析表」を基に、全職員との個別ヒアリングを、年2回行い職員の意識啓発と施設運営への意見聴取りを行った。
- ⑤ 余暇、レクレーション対策として、カラオケ機器を活用し、職員のリードで利用者の歌声が日常的に響く明るい環境づくりに努めた。
- ⑥ 事務職員が7月から不在になったが、委託職員と共に全員で事務分担することで対応してきた。
- ⑦ 施設運営の生産性向上及び経費節減のために、リース契約や委託契約の内容精査に努めると共に、消耗品の見直し、カラー印刷の見直し等に取り組んだ。
- ⑧ 介護報酬改定年度のため、保険請求に係る各種加算の算定要件の把握に努めた。
- ⑨ 事業計画、予算の執行状況の把握に努めた。
- ⑩ 会議を次のとおり開催したが、機能する運営を目指し、原則ワンペーパー説明、1時間以内を目標に進めた。

ア 職員全体会議（年3回 開催 — 5/25、9/25、3/25）

職員全員が参加する会議として、施設の基本方針、事業計画等を説明すると共に感染症、看取り等の研修会及び防災訓練なども併せ実施した。

イ 幹部会議（7月から毎月1→2回に変更、年21回 開催）

施設長・副施設長・介護部長（介護部主幹）・医務室長をメンバーとして、施設の課題の検討・決定、各部署間の調整を行った。

ウ 管理運営会議（毎月1回 年12回 開催）

幹部会議メンバーに加えフロアリーダー・相談員・事務室主任・管理栄養士をメンバーとして、施設運営の意思統一を図る会議として実施した。

会議内で入居判定会も実施し、入居手続き業務の迅速化等を図った。

2 介護部門

当園の基本理念、目標を、現場において実現する部門として、次の取組みを行った。

- ① リーダー会議を毎月1回、年13回開催した。
各部署・ユニットからの問題提起を事前に検討し、会議時間の有効活用を図った。
各リーダーが交代で議題案を作成、司会を務めることで、問題意識やケアの方向性を認識すると共にリーダーとしての資質を養うよう努めた。
- ② ユニット会議の毎月1回開催を目指し、各ユニットで実施した。

ユニットリーダーが主催し、処遇方針の論議・問題解決・企画の計画に当たった。

- ③ フロアー会議を各フロア一年3回以上開催した。

フロアリーダーが主催し、フロア内の協力体制の強化と共に、相互にフォローに入ることで他フロアの様子を把握できた。

- ④ 処遇別委員会

「排泄」「入浴」「食事」「ショートステイ」委員会を年3回リーダー会議後に開催した。また、その他随時開催し、処遇内容の検討・統一に努めた。

- ⑤ 研修・スキルアップについて

目的に合う研修に参加することで、その知識を処遇別委員会で報告する場を設け、職員に広げた。法人研修の一環の基礎研修にも個々で参加し、自身の質的向上を目指す意欲的な職員もいた。研修で得た情報を基に介護部マニュアルの見直した。

また、感染症の研修結果を感染対策に反映し、利用者の感染症を出さずに済んだ。

- ⑥ 食事に係る取組み

副食の刻みをユニットから厨房に移行することで、提供時間の短縮が図られ利用者の食事時間が増え、職員の声かけが多くなった。

- ⑦ 余暇・レクリエーションへの取組み

ボランティアの協力を得て利用者との散歩やゲーム等のレクリエーションを実施した。各フロアで、お花見ドライブや行事（端午の節句・七夕・運動会・クリスマス会・新年祝賀会・節分・雛祭り等）季節に合った企画をたて実施した。

また、9月からカラオケ機器が導入され、日々の生活の中で家族を含め多くの利用者が歌う楽しみが増え、利用者の生活に張りが出たように感じる。

- ⑧ 利用者や家族の参加の下、サービス担当会議を実施した。

（入居3か月後には必ず開催した。その他状況に応じ開催し年間25回位開催）

- ⑨ 「ケアプラン」を柱に、その方に合わせた日常のケアが行えるよう、居室担当の協力のもと経過支援記録を毎月作成した。

3 相談部門

利用者、家族と施設を結ぶ部門として、利用者満足度向上のため、次の取組みを行った。

- ① 利用者、家族からの要望に対し、傾聴する姿勢を常に心掛け、迅速な対応に努めた。
- ② 利用者満足度の向上、苦情ゼロ、事故件数大幅削減を目指し、利用者、家族の声を運営に活かしていくよう努めたが、苦情件数ゼロには至らなかった。
- ③ 万一の事故発生時には、適切な対応と共に家族・関係機関等への正確かつ迅速な報告、説明を心掛け、本人・家族の「安全・安心・安楽」と合わせて「信頼」も得られる対応に努めたものの、入院治療を要する事故の発生を未然に防ぐことができなかった。利用者、ご家族との関係構築の面からも引続き検討を要する課題である。
- ④ 静岡県指定介護老人福祉施設優先入居指針に基づいた入居希望者名簿を作成、随時相談に応じつつ、希望者の実情把握に努め、緊急を要すると思われる事例には迅速に対応した。優先入居検討委員会を2回実施（10/15、3/11）
- ⑤ 社会福祉士実習養成校として、実習生2名の受け入れを実施し、就職先として選ばれる施設づくり、相談援助業務を担う人材確保に努めた。

4 看護（医務）部門

施設の看護、医務を担う部門として、嘱託医師との連携のもと事故防止、医療ケア対策、感染症防止等のため、次の取組みを行った。

- ① 医務室会議（年 6 回開催）、健康診断（年 2 回実施—4/10・11/7）
菊川市立総合病院及び市内社会福祉施設等連絡会出席（年 4 回）
サービス担当者会議に参加し、統一した看護・ケアに心掛けた。
- ② 5 月 1 日から内科嘱託医の変更に伴い、全入居者の一覧表を作成し、見やすさと事前に FAX 送信することで、円滑な回診が行えるように努めた。
他、精神科も含め FAX・電話・来診で連絡を取合い連携を密にした。
- ③ 事故防止の一環として、ショート委員会と共同し利用前の情報収集・お薬手帳の持参等依頼し、内容のチェック・ほのぼのの定期薬剤への入力をした。また、時間投薬や外用薬の札を作成し、ユニットに提示し投薬ミスの防止に努めた。
- ④ 介護職員の医療知識・技術チェックを年 2 回以上、個々に実施しスキル向上に努めた。
・学習会：年 2 回開催—5/25 看取り介護とはなにか？なにが必要なのか？
9/25 入居に至るまでの経緯と入居後の生活について
※アンケートをとり、その中の意見を次のステップに結付けることが出来た。
・看取り介護では、計画書から振り返りまでを他職種と共に統一したケアを行い、ご家族への心身の負担の軽減に考慮し、昼夜問わずお見送りすることが出来良かった。

5 食事部門

食事は、利用者にとって最も重要な命の糧であり最大の楽しみであることを鑑み、食事の充実のために、次の取組みを行った。

- ① イベント食を定期的に行い、食事提供の充実を図った。
(鮎の塩焼き、流しそうめん、駄菓子屋さん、さんまの炭火焼、焼き芋、バイキング等)
- ② 季節感を感じる行事食を、月 1 回は提供出来る様に心掛けた。
- ③ 委託業者への衛生管理を徹底し、感染症の防止に努め、衛生管理チェック表を月 1 回提出
- ④ ユニットでの調理実演を行い、出来たての物を食べていただけるようにユニットでの調理を計画(おやつ作り、揚げたて天ぷら、ラーメン、寄せ鍋)
- ⑤ 経管栄養の栄養剤を液体から、トロミ付きの物に変えることで短時間で安全な経管栄養注入を可能にした。
- ⑥ 食事形態の見直しを各部署と連携し実施したが、時間を要し早急な対応が必要であった。
- ⑦ 介護支援専門員と連携しケアプランと栄養プランが連動した計画書を作成し、食事の重要性がプランにも反映できた。
- ⑧ 副食の刻み加工を厨房、盛付けはユニットで行い、配膳から提供までの時間を短縮化
- ⑨ 感染症、食中毒防止の為に、ユニット内冷蔵庫の食品管理、キッチン周りの清潔を保てるようチェックした。
- ⑩ 月 1 回の委託業者による打合せを通じて、給食材料費の収支報告の精査と厨房業務をスムーズに行えるようにした。
- ⑪ 食事委員会を月 1 回計 1 2 回開催し、食事内容や食事提供方法の改善に努めた。
また、処遇別委員会の食事委員会と統合することで、介護職員との連携をより強めた。

7 各委員会

施設運営の要となる各委員会について、11月から組織の再編成を行い、新たに事務局を置くと共に、委員長を施設長をはじめ幹部が担い、委員会機能の充実に取組んだ。

① 教育・研修委員会（前研修委員会）

毎月1回委員会を開催し、教育・研修の体系的、計画的実施を目指したが、県社協助成研修（接遇、パソコン、感染症対策、看取り介護）や先進的施設の視察など一部の実施に留まった。

② 企画・広報委員会（前広報委員会）

毎月1回委員会を開催し、企画・広報の充実に見える化を目指した。その結果1月から毎月の行事を月間行事表として玄関はじめ各ユニットに掲示し行事（全体、ユニット、ボランティア、行事食等）の見える化と内容の充実に努めた。特にカラオケを利用した歌う会を日常的に行うことで、利用者の余暇の充実及び生活全般の質の向上を図った。

③ 防災委員会

ア 被害想定をふまえた消火・避難・通報体制の確保等、防火・防災対策の徹底に努めた。

イ 防火安全対策の徹底を図るため、毎月定期的にフロア・ユニットごとに消防設備の取扱い方法、避難経路の確認機会を計画したものの口頭での説明がほとんどであり、毎月実施には至らなかった。

ウ 年2回以上の夜間訓練を計画、実施したが、入居者・職員多数が参加する避難誘導訓練の実施には至らなかった。

エ 災害時優先電話による連絡体制の整備と共に、災害時において有効な連絡手段となる情報を単語化し、携帯ショートメールで送信する方法も検討のみで実施には至らなかった。

④ 苦情解決委員会

ア 常に利用者の立場に立った対応と再発防止に心掛けた。

イ 早期対応、関係者への迅速な周知と情報の共有化に努めた。

ウ 第三者委員によるヒアリングが、11月28日に初めて開催され今後定期化することで苦情解決体制が充実することになった。

⑤ 個人情報保護委員会

ア 入居者、家族、職員の個人情報の漏えいや承諾なく情報が公表されないよう情報管理の徹底に努めた。

イ 職員緊急連絡網作成による職員の電話番号に関する管理を徹底した。

⑥ 事故防止委員会

毎月1回の委員会開催、研修を年1回開催。毎月の事故件数を把握することで、委員の意識を高めた。事故の多いフロアで事例検討を行い事故削減に努めた。千寿の園と事故区分の統一化を進めた。また、職員の事故への意識を高めるため、事務連絡に毎月の事故件数を入れた。

⑦ 身体拘束廃止委員会

毎月1回会議開催。拘束に対する研修を年2回実施した。

- ・ 5/25 身体拘束を理解する研修、11月スピーチロックに対する事例検討

- ・委員会では、身体拘束対象者の現状を把握し廃止に向けて、委員会から該当ユニットに発信。また、拘束への考え方もより真剣になり部署間同士の連携は取れていた。他部署間が連携をもつことで現場の精神的な負担は軽減されたと思う。

⑧ 看取り介護委員会

- ・会議：年 12 回開催
- ・看取り期に近い利用者の状態や、看取り介護での反省点、ご家族からの感謝の言葉などを報告した。
- ・日中に退去される際、全館放送で音楽を流すことで多くの人でお見送りができた。
- ・看取り介護では、計画書から振り返りまでを他職種と共に統一したケアを行い、ご家族への心身の負担の軽減に考慮し、昼夜問わずお見送りすることが出来良かった。

⑨ 感染症対策委員会

- ・会議：年 12 回開催
- ・学習会：年 2 回開催—5/25 食中毒について、9/25 感染性胃腸炎発症時の対応
- ・職員、健康管理表作成
職員から休みや体調不良の連絡の際に記入し、経過が分かるようになった。
- ・入居者、食事伝票の感染性胃腸炎用を作成。
※飲食中止の状態から、食事提供していく段階で混乱を防ぐことが出来た。
- ・事務連絡にて、最新情報の伝達を行い職員へ注意・周知を促した。
- ・10 月～流行期に合わせ、出勤前検温実施。厚労省のポスターを施設内に提示
- ・11 月、入居者・職員インフルエンザ予防接種実施。
- ・ショートステイ利用者宅へ、感染症疑い時のお便りを配布
- ・法人内研修（12/24）：講師 浜松赤十字病院感染認定看護師鈴木こなみ氏
- ・感染症マニュアル改訂版作成
- ・嘱託医との連携を密にし、早期発見に努め集団感染症を発症せず経過した。

⑩ 医療的ケア推進委員会

- ・会議：年 4 回開催
- ・医療知識・技術スキルチェック（経管栄養・吸引含む）：年 2 回施行
自己採点し、各フロア Ns.が個別採点、評価。フロア総括評価をまとめた。
- ・吸引・経管栄養の入居者は、家族に説明書兼同意書をもらい、医師から包括指示書を受け、個別計画書を作成する。現在、海 12 名・空 7 名・星 5 名作成済み。

⑪ 褥瘡対策チーム

- ・毎月 1 回チーム会を開催。
- ・褥瘡対策チーム員に『褥瘡とは』の資料を配布。自己にて学習するよう依頼。
5～6 月→「褥瘡とは何か?」、7～8 月→「予防・治療について」質問形式で学習した。
- ・『褥瘡予防対策についての実施及び評価』の用紙を居室担当者に毎月記入を依頼。
毎月のチーム会で皮膚トラブルの現状を知り、予防対策の見直し・検討を行った。
- ・ソフトナースの管理→褥瘡対策チームの下、フロア毎の管理から集中管理し(2階エレベーター横の倉庫)すると共に毎月使用枚数を把握した。
- ・研修会への参加→9/8「褥瘡セミナー in 静岡」に Ns 1 名出席
12/6「車椅子にズレないシーティング」→Ns 1 名・CW 4 名出席

第4 短期入所生活介護事業所

選ばれるショートステイのため、利用者満足度を高める必要があり、次の取組みを行った。

- 1 1日平均利用率が、8.0%→8.4%へ向上した。
- 2 ショートステイ委員会を11回開催して、利用者の情報把握や現場の状況確認を行った。
- 3 利用者満足度を高めるために、今まで以上に職員間の連携を大事にして「喜久の園を利用して良かった」と言ってもらえるよう努力している。
- 4 ショートステイユニットのある『くにやす苑』を見学し、職員同士で意見交換を行った。
- 5 ショートステイ担当看護師を通して医務室と連携し、医療的ケアの多い利用者の受け入れも行った。
- 6 余暇の充実を目指し毎日午後のカラオケレクレーションへの参加を促した。
- 7 スムーズな受け入れ、送り出しができるよう『ショート担当職員』を毎日設け、担当者が一日を責任持ってレイアウトするようにした。
- 8 利用率向上の為、各事業所への空室状況の案内を積極的に行った。

資料編

(平成24年度/平成25年3月31日現在)

喜久の園

1 介護度別利用(入居)者数

(平成25年3月31日現在)

	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合計
男性	0	1	0	3	4	8
女性	0	2	10	17	12	41
合計	0	3	10	20	16	49
割合(%)	0.0%	6.1%	20.4%	40.8%	32.7%	100.0%

平均要介護度	4.00	(男性 4.25	女性 3.95)
平成23年度	4.06	(男性 4.50	女性 4.00)

2 年齢別利用(入居)者数

(平成25年3月31日現在)

	64歳以下	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳	90歳～94歳	95歳以上	合計
男性	1	0	0	2	1	2	2	0	8
女性	3	0	2	1	9	10	8	8	41
合計	4	0	2	3	10	12	10	8	49

(平成24年3月31日現在)

	合計
男性	6
女性	44
合計	50

3 利用(入居)者平均年齢

(平成25年3月31日現在)

	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	82歳0か月	58歳8か月	94歳8か月
女性	86歳9か月	58歳9か月	100歳3か月
合計	85歳11か月	—	—

(平成24年3月31日現在)

	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	89歳8ヶ月	82歳7ヶ月	99歳8ヶ月
女性	87歳8ヶ月	57歳9ヶ月	99歳3ヶ月
合計	87歳11ヶ月	—	—

4 在所期間別利用(入居)数

(平成25年3月31日現在)

	1年未満	2年未満	3年未満	4年未満	4年以上	合計
男性	6	0	0	1	1	8
女性	12	5	8	10	6	41
合計	18	5	8	11	7	49

(平成24年3月31日現在)

	1年未満	2年未満	3年未満	4年未満	4年以上	合計
男性	1	1		1	3	6
女性	10	10	10	2	12	44
合計	11	11	10	3	15	50

5 食事介助状況者数

(平成25年3月31日現在)

区分	人数	割合
全面介助者	9	18.4%
一部介助者	6	12.2%
介助なし	34	69.4%

(平成24年3月31日現在)

区分	人数	割合
全面介助者	17	34.0%
一部介助者	10	20.0%
介助なし	23	46.0%

6 入浴介助状況者数

(平成25年3月31日現在)

区 分	人数	割合
特別浴	28	57.1%
個 浴	21	42.9%

(平成24年3月31日現在)

区 分	人数	割合
特別浴	30	60.0%
個 浴	20	40.0%

7 排泄介助状況者数

(平成25年3月31日現在)

区 分	人数	割合
おむつ使用者	25	51.0%
紙ハンツ又はトイレ介助者、 ポータブルトイレ使用者	18	36.7%
歩行、杖等でのトイレ使用者	6	12.2%

(平成24年3月31日現在)

区 分	人数	割合
おむつ使用者	20	40.0%
紙ハンツ又はトイレ介助者、 ポータブルトイレ使用者	27	54.0%
歩行、杖等でのトイレ使用者	3	6.0%

8 面会状況

(平成24年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成23年度
人 数	426	456	421	401	382	349	416	389	366	348	288	381	4,623	4,292
1日平均人数	14.2	14.7	14.0	12.9	12.3	11.6	13.4	13.0	11.8	11.2	10.3	12.3	12.7	11.7

9 帰省(外出)状況

(平成24年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成23年度
人 数	10	8	7	6	6	7	7	9	6	7	3	7	83	68
日 数	11	10	10	8	10	11	9	12	9	10	5	10	115	82

10 入居・退去状況

(平成24年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成23年度
入居者数	2	3	2	2	1	2	2	1	1	1	1	1	19	12
退去者数	3	2	2	2	1	2	2	1	2	1	1	1	20	12
月末在籍者数	49	50	50	50	50	50	50	50	48	49	49	49	594	598

(平成24年度)

	入 居			退 去			平成23年度			
	男 性	女 性	合 計	男 性	女 性	合 計	入居	退去		
人 数	8	11	19	6	14	20	12	12		
入居前及び 退去時の状 況	居 宅		5	死 亡		20	居宅	5	死亡	9
	病 院		2	他施設・長期入院		0	病院	1	他施設 長期入院	3
	施設(老健等)		12	居 宅		0	施設	6	居宅	0

11 苦情受付状況

1) 苦情受付件数

(平成24年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成23年度
苦情受付件数	2	3	0	0	0	1	1	0	2	0	1	0	10	8

2) 苦情の分類一覧

(平成24年度)

苦情の分類	件数
ケアの内容に関わる事項	3
個人の嗜好・選択に関わる事項	1
他の利用者・職員に関わる事項	3
面会者に関わる事項	0
財産管理等に関わる事項	0
施設内規に関する事項	0
その他	3
合計	10

(平成23年度)

苦情の分類	件数
ケアの内容に関わる事項	5
個人の嗜好・選択に関わる事項	0
他の利用者・職員に関わる事項	0
面会者に関わる事項	0
財産管理等に関わる事項	0
施設内規に関する事項	0
その他	3
合計	8

12 他医療機関への受診状況

(平成24年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平成23年度
内科	1	1	1	2	1	0	4	1	2	0	0	3	16	12
精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳外科	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1
整形外科	1	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	5	10
外科	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
泌尿器科	0	0	0	1	0	0	1	0	0	3	0	0	5	5
眼科	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	4	6
皮膚科	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	3
循環器科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	4	2	3	3	1	6	2	4	3	1	3	34	40

13 入居者・利用者医療状況

1) 入院状況

(平成24年度)

治療科	人数	治療科	人数	平成23年度	
内科	1	泌尿器科	0	5	
循環器科	0	整形外科	3		2
脳外科	0	口腔外科	0		

2) 処置状況

(平成25年3月31日現在)

処置状況	人数	処置状況	人数	平成24年3月31日現在	
経口与薬	48	経管栄養	4	49	5
創傷処置	3	バルーンカテーテル挿入	1	2	1
軟膏塗布	0	洗腸、排便、軟膏貼付	適宜	1	適宜
点眼	0			1	

3) 嘱託医師定期外往診状況()は電話指示依頼

(平成24年度)

月	回数	月	回数	平成23年度	
4月	2(4)	10月	2(5)	(7)	(10)
5月	1(3)	11月	1(7)	1(14)	2(25)
6月	2(15)	12月	2(11)	(9)	(13)
7月	2(4)	1月	2(9)	2(11)	(60)
8月	1(4)	2月	2(8)	4(12)	4(11)
9月	3(8)	3月	1(4)	4(10)	(7)
合計		21(82)		17(189)	

4) オンコール出勤回数・()は電話対応のみ回数

(平成24年度)

月	回数	月	回数	平成23年度	
4月	4(5)	10月	2(1)	1(3)	0
5月	4(3)	11月	0(0)	2(6)	2
6月	2(3)	12月	2(3)	1(2)	1(4)
7月	2(3)	1月	2(1)	6(6)	1(19)
8月	1(2)	2月	1(3)	1(3)	1(8)
9月	2(2)	3月	1(3)	1(1)	2(6)
合計		23(29)		19(58)	

14 所在状況

(平成25年3月31日現在)

保険者名	在籍者数	入居・退去状況		平成24年3月31日現在		
		入居	退去	在籍者数	入居	退去
菊川市	42	18	17	41	10	9
掛川市	5	1	1	5	2	1
牧之原市	0	0	0	0	0	1
島田市	0	0	0	0	0	1
御前崎市	1	0	2	3	0	0
袋井市	1	0	0	1	0	0
合計	49	19	20	50	12	12

15 入居申込み(待機者)状況

(平成25年3月31日現在)

市区町名	申込者数	平成24年3月31日現在
菊川市	208	166
掛川市	12	17
牧之原市	5	7
御前崎市	0	1
島田市	2	1
袋井市	1	1
浜松市	2	2
磐田市	1	1
静岡市	1	0
県外	3	5
合計	235	201

16 ボランティア(慰問)状況

(平成24年度)

月 日	団体名(代表者名)及び個人名	内 容
毎月2回 (第2第4火)	ふれあい犬ボランティア	犬とのふれあい
毎月第1火曜日	ハーモニー青葉	ハーモニカ演奏と入居者馴染みの歌の披露
毎月第1金曜日	ハーモニカ・オカリナ・ハンドベル	ハーモニカ等の演奏を通して音楽に触れる
毎月第3火曜日	傾聴・お話グループ	傾聴・入居者とのふれあい
毎週火曜日	松風花道会	生け花講座受講者の方の作品展示
毎月1回	民生児童委員 介護施設ボランティア	入居者とのコミュニケーション・外出支援
毎月2回 (第2第4火)	個人ボランティア	入居者とのコミュニケーション・散歩
年6回 (偶数月)	おんがくの広場	演奏と楽器のふれあい
8月11日	えぷろんの会	納涼祭 イベントのお手伝い
9月15日	唱女会	敬老祝賀会での三味線演奏
10月13日	菊川市祭典(仲島地区)	踊り披露
12月	サンタクロース ボランティア	サンタクロースとして、各フロアのクリスマスイベントに参加
不定期	季節の飾り 創作	季節を感じられる飾り物の制作

17 ボランティア(奉仕)状況

(平成24年度)

団体名(代表者名)および個人名	内 容	延日数	実人数	団体名(代表者名)および個人名	内 容	延日数	実人数
明るい社会づくり推進協議会菊川支部	タオル寄贈	1	-	六郷小学校5年	夏休み ボランティア体験	2	1
民生児童委員	施設周辺の草刈り	6	1	六郷小学校5年		1	1
岳洋中学校1年 福祉体験学習	補助業務 コミュニケーション	2	12	六郷小学校5年	夏休み ボランティア体験 コミュニケーション	1	1
大浜中学校3年 福祉施設体験	補助業務 コミュニケーション	2	10	六郷小学校5年		1	1
加茂小学校5年	夏休み ボランティア体験 コミュニケーション 清掃	1	1	六郷小学校5年	清掃	1	1
加茂小学校5年		1	1	六郷小学校6年		4	1
河城小学校4年		9	1	六郷小学校6年	4	1	
菊川東中学校2年		9	1	菊川東中学校2年	納涼祭 お手伝い	1	1
横地小学校6年		2	1	菊川東中学校3年		1	1
横地小学校6年		2	1	菊川東中学校3年		1	1
横地小学校6年		2	1	聖隷クリスファー大学3年		1	1
六郷小学校4年		1	1	六郷小学校4年		1	1
六郷小学校4年		10	1	六郷小学校6年		1	1
六郷小学校4年		7	1	六郷小学校6年		1	1
六郷小学校5年	3	1					

平成24年度 合 計 年間延日数 97日 年間実人数 49人

平成23年度 合 計 年間延日数 93日 年間実人数 65人

18 事故調査状況

(平成24年度)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平成23年度
怪我	転倒	0	2	2	5	1	1	1	1	0	2	0	1	16	66
	転落・滑落	2	1	0	2	1	1	2	2	1	0	3	1	16	68
	摩擦	11	8	8	12	13	16	13	8	10	6	11	5	121	72
	衝突	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	4	1
食物	誤嚥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	異食・誤飲	2	1	2	3	2	1	0	1	2	0	0	0	14	21
	経管栄養	1	3	1	1	1	2	3	2	3	0	0	0	17	
薬	誤薬	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	2	5	4
	投薬忘れ	0	0	0	1	0	1	6	2	0	4	2	3	19	
	内服薬	6	8	4	2	6	2	0	2	3	0	2	3	38	87
	配薬	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
ケア	爪切り	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	4	
	ケア提供	0	0	1	1	2	1	6	1	0	1	0	0	13	
	ショート忘れ物	3	4	0	3	0	1	2	1	2	0	0	0	16	29
物損	私物紛失	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	
	物損	2	1	4	6	2	4	7	3	6	4	1	0	40	28
	利用者同士のトラブル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
	その他	16	11	12	2	2	3	0	0	0	3	0	0	49	99
													0		
合計	43	39	34	41	33	35	41	24	27	22	19	17	375	475	

19 実習状況

(平成24年度)

学校名等	実習名	延日数	実人数	平成23年度	
東京女子医科大学	基礎看護実習	16	8	—	—
東海福祉専門学校	希望実習	20	4	—	—
静岡福祉大学	介護福祉実習	21	3	82	5
三幸福祉カレッジ	ヘルパー2級実習	18	9	14	7
聖隷クリストファー大学	社会福祉援助技術実習	46	2	—	—
合計		121	26	113	15

※合計とは一致し

20 短期入居生活介護利用状況

(平成24年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成23年度
利用者人数	41	42	42	40	40	43	40	40	37	36	39	42	482	542
総利用者数	273	283	273	251	252	252	258	236	239	240	244	252	3053	2,925

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均利用率	平成23年度
1日平均	9.1	9.1	9.1	8.1	8.1	8.4	8.3	7.9	7.7	7.7	8.4	8.1	8.3	8.0
送迎回数	116	113	114	102	107	111	109	112	112	117	117	126	113	95